

コンクリート製品提供でインフラ整備に貢献しつつ リペアエンジニアリングで現代のニーズに対応

同社は1925年の創業以来、コンクリート製品の製造販売を行い、北海道内に7営業所、5工場を展開し、社会インフラ整備の一翼を担うため、製造ラインの拡充を行い技術を研鑽している。予てより製品の長寿命化や環境負荷低減を図るバイコン製法の導入や、コンクリート構造物の劣化防止や維持補修の施工技術の向上など、今の時代のニーズにあわせた取組を行っている。今後も社是である「和」を重んじつつ、社訓である「誠実 積極 責任」を実践することで永続的な事業の発展を目指す。

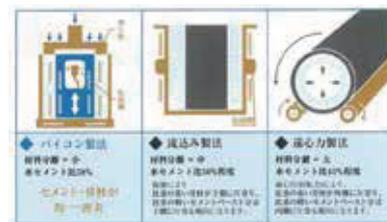
所在地 北海道登別市新川町2-5-1
電話/FAX 0143-85-2021/0143-88-1663
URL www.ueda-gr.jp
代表者 代表取締役 上田 朗大

設立 1950年
資本金 7,200万円
従業員数 153人



製品長寿命化と環境負荷低減のバイコン製法、高強度と耐久性のマーベルレック工法

同社はコンクリート製品事業においては国内でいち早くデンマーク生まれのバイコン製法を取り入れ、この製法のコンクリート製品は鉄筋の腐食が起こる中性化などに対して優れた耐久性を示し長寿命である。さらにこのバイコン製法は、他製法に比べて使用するセメント量が少ないので、二酸化炭素の排出量が少なくなることによる環境負荷低減も特徴である。またリペアエンジニアリング事業においては工場、倉庫などの高強度の必要な床仕上げ材としてマーベルレック(アクリル樹脂)を使用し、コンクリート構造物の耐久性を向上させる。



バイコン製法と他製法との比較

インドでの共同事業によるコンクリート製品の生産開始

同社は現在、(株)武井工業所(茨城県)、小倉セメント製品工業(株)(福岡県)、トヨタ工機(株)(東京都)、Fuji Silvertch Concrete PVT Ltd(FSC)(インド)と共同で、近年発展が著しいインドにおいて、インフラ向けプレキャストコンクリート製品生産工場を建設中である。2022年に完成とともに生産開始を予定している。今後は国内の基盤を充実させるとともに、インドを足がかりにアジア地域の発展にも貢献することを目指す。



建設中のコンクリート製品生産工場

(株)ワンテーブルとの資本提携による地域の食材利用による商品開発

同社は2020年10月、(株)ワンテーブルと資本業務提携を締結。(株)ワンテーブルは宮城県を拠点として東日本大震災での経験をもとに展開している企業である。世界初の5年間保存できる防災備蓄食や災害時に必要となる食物繊維を含んだ健康食品などの商品の企画・販売を行っている。同社は(株)ワンテーブルと共同で北海道各地の地域の食材を原料として備蓄食、健康食品の開発を行い、北海道内各地、将来的にはアジア地域に展開し、自社の防災事業とのシナジー効果による付加価値向上を目指す。



5年半保存可能なゼリー飲料